

# ダイワ新興国ソブリン債券ファンド (資産成長コース/通貨αコース)

&lt;5620&gt; &lt;5621&gt;

## (資産成長コース) 追加型投信/海外/債券

日経新聞掲載名: 新興ソブ成長

## (通貨αコース) 追加型投信/海外/債券

日経新聞掲載名: 新興ソブ通α

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

〔資産成長コース〕は、新興国の現地通貨建債券に分散投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざし、〔通貨αコース〕は、新興国の現地通貨建債券への分散投資とオプション取引を組み合わせた通貨カバードコール戦略を構築し、オプションプレミアムの獲得ならびに信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## (資産成長コース)

第10期	2019年1月17日決算
------	--------------

## (通貨αコース)

第54期	2018年8月17日決算	第57期	2018年11月19日決算
第55期	2018年9月18日決算	第58期	2018年12月17日決算
第56期	2018年10月17日決算	第59期	2019年1月17日決算

## (資産成長コース)

第10期末	基準価額	9,421円
	純資産総額	824百万円
第10期	騰落率	△2.0%
	分配金	10円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を含めて計算したものです。

## (通貨αコース)

第59期末	基準価額	4,952円
	純資産総額	1,898百万円
第54期~第59期	騰落率	△3.0%
	分配金合計	285円


(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号  
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

運用報告書に関するお問い合わせ先

 コールセンター 受付時間 9:00~17:00(営業日のみ)  
0120-106212

お客様の口座内容に関するご照会は、  
お申し込みされた販売会社にお問い合わせください。

■当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供する  
ことを定めており、以下の手順で閲覧、ダウンロードいただけます。「運用報告書(全体版)」は受益者の方  
からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社へお問い合わせください。

UD  
FONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

「運用報告書(全体版)」の閲覧・ダウンロード方法

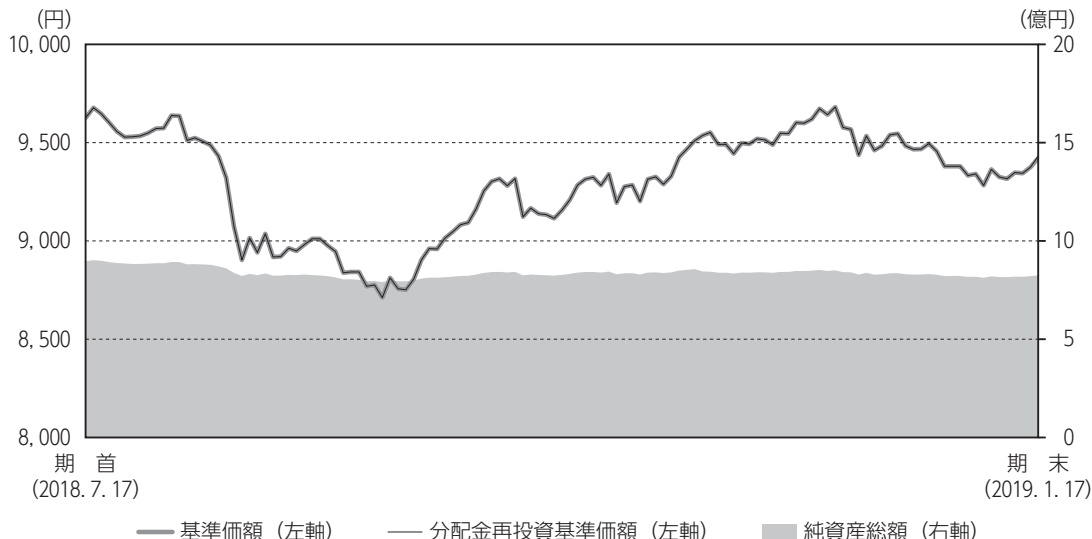
上記のURLにアクセス → ファンド検索欄にファンド名を入力 → リストから当ファンドを選択 → 運用報告書(全体版)を選択

資産成長コース



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

#### 基準価額・騰落率

期首：9,626円

期末：9,421円（分配金10円）

騰落率：△2.0%（分配金込み）

#### 基準価額の主な変動要因

債券の利息収入や債券価格の上昇がプラス要因となりましたが、投資している通貨が円に対して下落したことなどがマイナス要因となり、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2018. 7. 18~2019. 1. 17)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	54円	0. 585%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>当作成期中の平均基準価額は9, 298円です。</b>
（投 信 会 社）	(15)	(0. 163)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(38)	(0. 408)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0. 014)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0. 004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	55	0. 589	

(注 1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注 2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注 3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注 4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2014年1月24日を10,000として指数化したものです。

\*参考指数は J P モルガン G B I - E M グローバル ダイバーシファイド (円換算) です。

	2014年1月24日 設定	2015年1月19日 決算日	2016年1月18日 決算日	2017年1月17日 決算日	2018年1月17日 決算日	2019年1月17日 決算日
基準価額 (円)	10,000	11,236	9,233	9,509	10,297	9,421
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	20	20	20	20	20
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	12.6	△17.7	3.2	8.5	△8.3
J P モルガン G B I - E M グローバル ダイバーシファイド (円換算) 騰落率 (%)	—	10.2	△17.8	10.4	14.1	△7.4
純資産総額 (百万円)	7,924	5,274	2,303	1,523	1,154	824

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

(注3) J P モルガン G B I - E M グローバル ダイバーシファイド (円換算) は、J P モルガン ガバメント・ボンド・インデックス・エマーゼン・マーケット グローバル ダイバーシファイド (米ドルベース) をもとに、大和投資信託が円換算したものです。

(注4) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注5) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

## 投資環境について

(2018. 7. 18 ~ 2019. 1. 17)

### ■新興国債券市況

新興国債券市場は、個別国の材料に加えて、米国の金利低下や世界的な株価の下落などの影響を受ける展開となりました。

#### ・ 欧州・中東・アフリカ地域

トルコでは、米国との関係悪化懸念が高まり金利が上昇する局面がありましたが、中央銀行が大幅な利上げを行ったことや、米国との関係悪化懸念が後退したことに伴い、金利は低下しました。南アフリカでは、インフレ率の低下などから短期の金利は低下しました。ロシアでは、原油価格の下落などにより金利は上昇しました。

#### ・ アジア地域

インドネシアやフィリピンでは、世界的な株価の下落など市場のリスク回避的な姿勢が強まったことで、金利は上昇しました。インドでは、原油価格の下落によって経常赤字の縮小期待が高まったことなどから、金利は低下しました。

#### ・ 中南米地域

ブラジルでは、大統領選挙で経済政策について市場から高い評価を得ているボルソナロ氏が勝利したことなどから、金利は低下しました。メキシコでは、2018年10月下旬に新空港建設中止が発表されたことをきっかけに政治的不透明感が高まったことなどから、金利は上昇しました。ペルーでは、世界的な株価の下落など市場のリスク回避的な姿勢が強まったことなどから、金利は上昇しました。

### ■為替相場

投資対象通貨の対円為替相場は、個別国要因に加えて、トルコ・リラの急落を背景とした新興国市場への懸念の影響や世界的な株価の下落の影響を受ける展開となりました。

#### ・ 欧州・中東・アフリカ地域

トルコ・リラは、米国との関係悪化懸念が高まり対円で下落しました。南アフリカ・ランドは、新興国市場への懸念の影響や世界的な株価の下落など市場のリスク回避的な姿勢が強まったことなどにより、対円で下落しました。ロシア・ルーブルは、原油価格の下落などから対円で下落しました。

#### ・ アジア地域

インドネシア・ルピア、フィリピン・ペソ、インド・ルピーは、新興国市場への懸念の影響や世界的な株価の下落など市場のリスク回避的な姿勢が強まったことで、対円で下落しました。

・中南米地域

ブラジル・リアルやペルー・ソルは、新興国市場への懸念の影響や世界的な株価の下落など市場のリスク回避的な姿勢が強まったことで、対円で下落しました。メキシコ・ペソは、新空港建設の中止の発表などから対円で下落しました。

## 前作成期末における「今後の運用方針」

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

※エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）：クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ-ダイワ・エマージング・ローカル・マーケット・ボンド・ファンド（資産成長クラス）

### ■エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）

欧州・中東・アフリカ、アジア、中南米の3地域で地域分散を図り、その地域内で3通貨ずつ、計9通貨の高金利債券に投資することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。金利リスクを表す修正デュレーションは1（年）程度～3（年）程度でコントロールします。

### ■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

## ポートフォリオについて

（2018.7.18～2019.1.17）

### ■当ファンド

当作成期を通じてエマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

### ■エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）

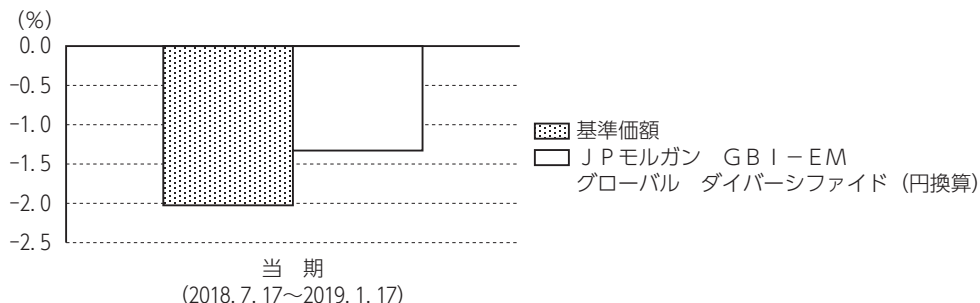
- ・通貨配分に関しては、基本的な商品性格に基づき、各地域均等、各地域内の投資通貨においても均等となることをめざしました。
- ・欧州・中東・アフリカ地域ではトルコ・リラ、南アフリカ・ランド、ロシア・ルーブルに、アジア地域においては、インドネシア・ルピア、フィリピン・ペソ、インド・ルピーに、中南米地域ではブラジル・リアル、メキシコ・ペソ、ペルー・ソルにそれぞれ投資を行いました。
- ・債券ポートフォリオの金利リスクについては、修正デュレーションで1（年）程度～3（年）程度でコントロールしました。また、組入債券の種別構成については、主に現地通貨建国債からなるポートフォリオ構成としました。

### ■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債、現先取引およびコール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2018年7月18日 ～2019年1月17日	
<b>当期分配金（税込み）</b>	<b>(円)</b>	<b>10</b>
対基準価額比率	(%)	0.11
当期の収益	(円)	10
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	3,314

### 収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 360.74円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00
(c) 収益調整金	52.42
(d) 分配準備積立金	2,910.98
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	3,324.14
(f) 分配金	10.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	3,314.14

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。  
(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。  
(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。





## 今後の運用方針

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）

欧州・中東・アフリカ、アジア、中南米の3地域で地域分散を図り、その地域内で3通貨ずつ、計9通貨の高金利債券に投資することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。金利リスクを表す修正デュレーションは1（年）程度～3（年）程度でコントロールします。

### ■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

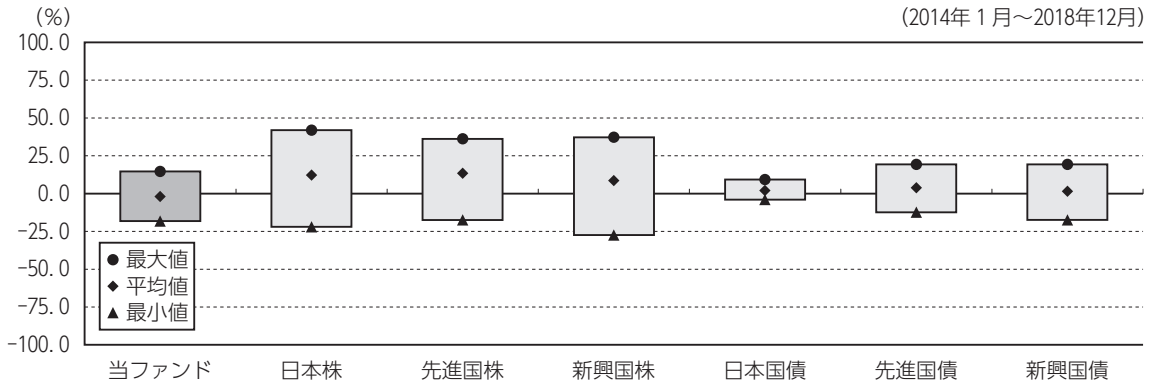


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	約10年間（2014年1月24日～2024年1月17日）	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ、ケイマン籍の外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲーダイワ・エマージング・ローカル・マーケット・ボンド・ファンド（資産成長クラス）」（以下「エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）」といいます。）の受益証券（円建） ロ、ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネー・マザーファンド	本邦通貨表示の公社債
当ファンドの運用方法	①主として、エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）の受益証券を通じて、新興国の現地通貨建債券に分散投資し、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。 ②当ファンドは、エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）とダイワ・マネー・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態では、エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。	
マザーファンドの運用方法	①わが国の公社債を中心に安定運用を行ないます。 ②邦貨建資産の組み入れにあたっては、取得時に第二位（A-2格相当）以上の短期格付であり、かつ残存期間が1年未満の短期債、コマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、信託財産の成長に資することを目的に、配当等収益の中から基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、配当等収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	14.6	41.9	36.2	37.2	9.3	19.3	19.3
平均値	△ 2.0	12.2	13.4	8.5	2.0	3.8	1.5
最小値	△ 18.2	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。

②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。

③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI 国債

先進国債……………FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCI コクサイ・インデックスおよびMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI 国債の知的財産権とその一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLC が有しています。●J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.



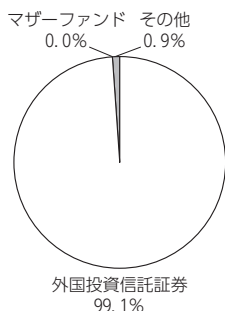
## ファンドデータ

### 当ファンドの組入資産の内容

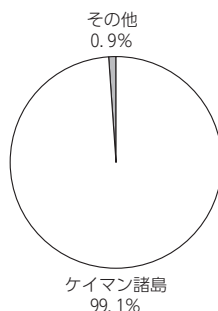
#### 組入ファンド等

	比率
エマージング・ボンド・ファンド（資産成長クラス）	99.1%
ダイワ・マネー・マザーファンド	0.0
その他	0.9

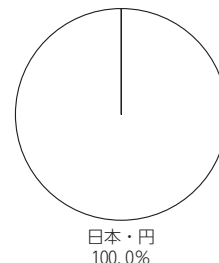
#### 資産別配分



#### 国別配分



#### 通貨別配分



(注1) 上記データは2019年1月17日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

\*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

### 純資産等

項目	当 期 末
	2019年1月17日
純資産総額	824,721,030円
受益権総口数	875,429,934口
1万口当り基準価額	9,421円

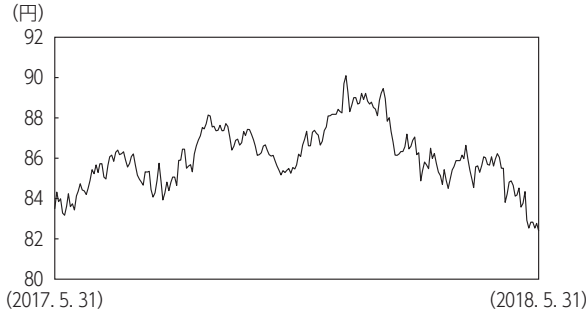
\* 当期中における追加設定元本額は1,026,651円、同解約元本額は57,504,876円です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

## 組入上位ファンドの概要

### ◆クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－ダイワ・エマージング・ローカル・マーケット・ボンド・ファンド（資産成長クラス）（作成対象期間 2017年6月1日～2018年5月31日）

#### ■ 1口当り評価額の推移



(注) 1口当り評価額は、分配金を再投資したものとみなして計算しています。

#### ■ 1口当りの費用の明細

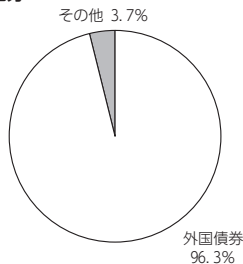
当ファンドの単位口数当りの費用のデータは取得できないため、記載していません。

#### ■ 組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
BONOS DE T 7.84% 08/12/20/PEN/	ペルー・ソル	11.3%
NOTA DO TESO 10% 01/01/21/BRL/	ブラジル・レアル	10.5
PHILIPPIN 3.875% 11/22/19/PHP/	フィリピン・ペソ	9.5
PETROLEOS 7.65% 11/24/21/MXN/	メキシコ・ペソ	8.8
INDONESIA 7.875% 04/15/19/IDR/	インドネシア・ルピア	8.7
REPUBLIC O 7.25% 01/15/20/ZAR/	南アフリカ・ランド	7.2
TURKEY GOVE 8.8% 11/14/18/TRY/	トルコ・リラ	6.5
THAILAND 3.875% 06/13/19/THB/	タイ・バーツ	5.7
THAILAND G 3.65% 12/17/21/THB/	タイ・バーツ	5.6
RUSSIA GOVT 6.7% 05/15/19/RUB/	ロシア・ルーブル	5.5
組入銘柄数	19銘柄	

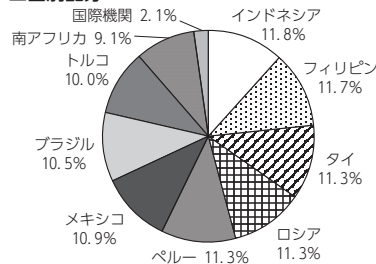
(注) 比率は債券のポートフォリオ全体に対する比率です。

#### ■ 資産別配分



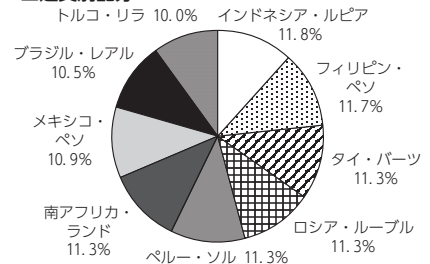
(注) 比率は買戻償還可能受益証券保有者帰属純資産に対する比率です。

#### ■ 国別配分



(注) 比率は債券のポートフォリオ全体に対する比率です。

#### ■ 通貨別配分

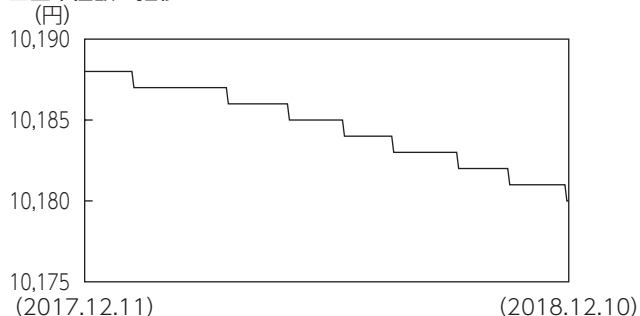


(注) 比率は債券のポートフォリオ全体に対する比率です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

◆ダイワ・マネー・マザーファンド（作成対象期間 2017年12月12日～2018年12月10日）

■基準価額の推移



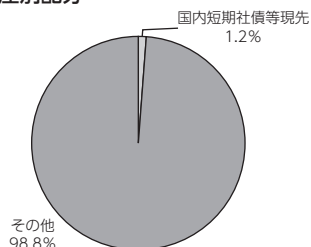
■1万口当りの費用の明細

項目	金額
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (その他)	1 (1)
合計	1

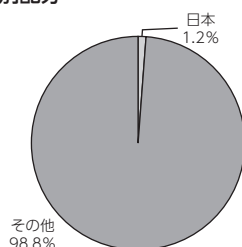
■組入上位銘柄

銘柄名	比率
野村證券（C P 現先）	1.2%
組入銘柄数	1銘柄

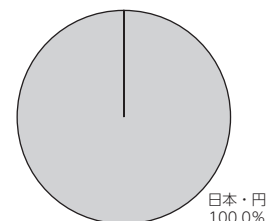
■資産別配分



■国別配分



■通貨別配分



（注1）基準価額の推移、1万口当りの費用の明細は組入ファンドの直近の作成対象期間のものです。

（注2）1万口当りの費用の明細における費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。また、円未満を四捨五入してあります。

（注3）組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

（注4）国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

（注5）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

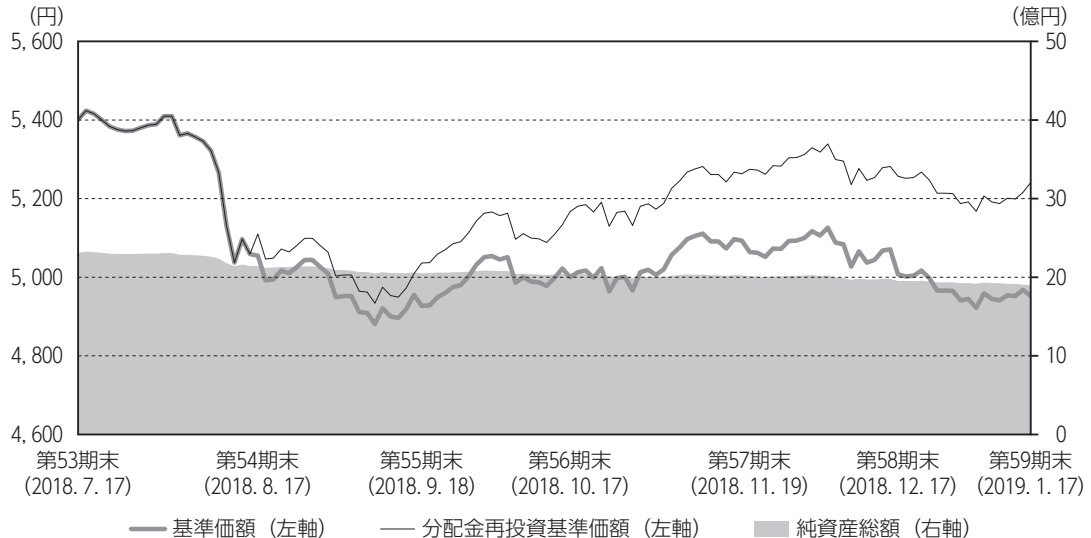
\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

## 通貨αコース



## 運用経過

## 基準価額等の推移について



\* 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

\* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります (分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります)。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

## ■ 基準価額・騰落率

第54期首：5,401円

第59期末：4,952円 (既払分配金285円)

騰落率：△3.0% (分配金再投資ベース)

## ■ 基準価額の主な変動要因

通貨オプション取引によるプレミアム収入、債券の利息収入、債券価格の上昇がプラス要因となりましたが、投資している通貨が円に対して下落したことなどがマイナス要因となり、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	第54期～第59期 (2018. 7. 18～2019. 1. 17)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	30円	0.584%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 <b>当作成期中の平均基準価額は5,059円です。</b>
（投 信 会 社）	(8)	(0.163)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(21)	(0.408)	販売会社分は、運用報告書等各种書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 銀 行）	(1)	(0.013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	2	0.034	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（投資信託受益証券）	(2)	(0.034)	
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	31	0.621	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

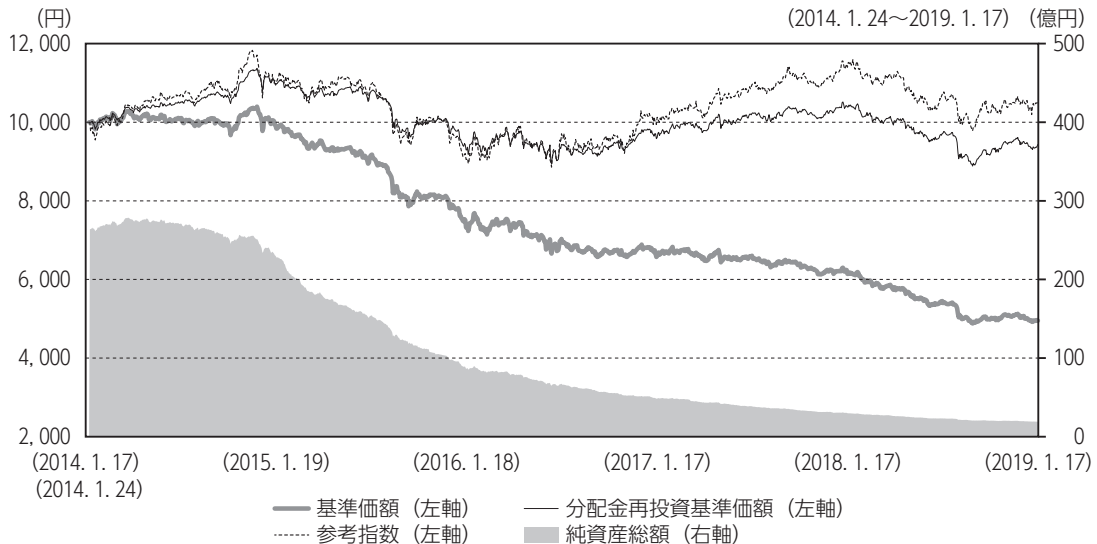
(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。



## 最近5年間の基準価額等の推移について



(注) 参考指数は、2014年1月24日を10,000として指数化したものです。

\*参考指数は J P モルガン G B I - E M グローバル ダイバーシファイド (円換算) です。

	2014年1月24日 設定	2015年1月19日 決算日	2016年1月18日 決算日	2017年1月17日 決算日	2018年1月17日 決算日	2019年1月17日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,838	7,323	6,658	6,141	4,952
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	1,100	1,120	960	960	640
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	9.8	△15.3	4.4	7.0	△9.1
J P モルガン G B I - E M グローバル ダイバーシファイド (円換算) 騰落率 (%)	—	10.2	△17.8	10.4	14.1	△7.4
純資産総額 (百万円)	26,404	22,819	8,648	4,886	2,986	1,898

(注1) 比率は小数点第1位未満を四捨五入してあります。

(注2) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しております。

(注3) J P モルガン G B I - E M グローバル ダイバーシファイド (円換算) は、J P モルガン ガバメント・ボンド・インデックス・エマーゼン・マーケット グローバル ダイバーシファイド (米ドルベース) をもとに、大和投資信託が円換算したものです。

(注4) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注5) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

## 投資環境について

（2018. 7. 18 ~ 2019. 1. 17）

### ■新興国債券市況

新興国債券市場は、個別国の材料に加えて、米国の金利低下や世界的な株価の下落などの影響を受ける展開となりました。

#### ・ 欧州・中東・アフリカ地域

トルコでは、米国との関係悪化懸念が高まり金利が上昇する局面がありましたが、中央銀行が大幅な利上げを行ったことや、米国との関係悪化懸念が後退したことに伴い、金利は低下しました。南アフリカでは、インフレ率の低下などから短期の金利は低下しました。ロシアでは、原油価格の下落などにより金利は上昇しました。

#### ・ アジア地域

インドネシアやフィリピンでは、世界的な株価の下落など市場のリスク回避的な姿勢が強まったことで、金利は上昇しました。インドでは、原油価格の下落によって経常赤字の縮小期待が高まったことなどから、金利は低下しました。

#### ・ 中南米地域

ブラジルでは、大統領選挙で経済政策について市場から高い評価を得ているボルソナロ氏が勝利したことなどから、金利は低下しました。メキシコでは、2018年10月下旬に新空港建設中止が発表されたことをきっかけに政治的不透明感が高まったことなどから、金利は上昇しました。ペルーでは、世界的な株価の下落など市場のリスク回避的な姿勢が強まったことなどから、金利は上昇しました。

### ■為替相場

投資対象通貨の対円為替相場は、個別国要因に加えて、トルコ・リラの急落を背景とした新興国市場への懸念の影響や世界的な株価の下落の影響を受ける展開となりました。

#### ・ 欧州・中東・アフリカ地域

トルコ・リラは、米国との関係悪化懸念が高まり対円で下落しました。南アフリカ・ランドは、新興国市場への懸念の影響や世界的な株価の下落など市場のリスク回避的な姿勢が強まったことなどにより、対円で下落しました。ロシア・ルーブルは、原油価格の下落などから対円で下落しました。

#### ・ アジア地域

インドネシア・ルピア、フィリピン・ペソ、インド・ルピーは、新興国市場への懸念の影響や世界的な株価の下落など市場のリスク回避的な姿勢が強まったことで、対円で下落しました。

・中南米地域

ブラジル・リアルやペルー・ソルは、新興国市場への懸念の影響や世界的な株価の下落など市場のリスク回避的な姿勢が強まったことで、対円で下落しました。メキシコ・ペソは、新空港建設の中止の発表などから対円で下落しました。

■ **為替ボラティリティ相場**

新興国通貨の対円ボラティリティは、おおむね上昇しました。

**前作成期末における「今後の運用方針」**

■ **当ファンド**

当ファンドの商品性格に鑑み、エマージング・ボンド・ファンド（通貨 $\alpha$ クラス）の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

※エマージング・ボンド・ファンド（通貨 $\alpha$ クラス）：クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ-ダイワ・エマージング・ローカル・マーケット・ボンド・ファンド（通貨 $\alpha$ クラス）

■ **エマージング・ボンド・ファンド（通貨 $\alpha$ クラス）**

欧州・中東・アフリカ、アジア、中南米の3地域で地域分散を図り、その地域内で3通貨ずつ、計9通貨の高金利債券に投資することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。金利リスクを表す修正デュレーションは1（年）程度～3（年）程度でコントロールします。通貨カバードコール戦略を構築し、オプションプレミアムの獲得をめざします。

■ **ダイワ・マネー・マザーファンド**

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行います。

## ポートフォリオについて

(2018. 7. 18 ~ 2019. 1. 17)

### ■当ファンド

当作成期を通じてエマージング・ボンド・ファンド（通貨αクラス）の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行いました。

### ■エマージング・ボンド・ファンド（通貨αクラス）

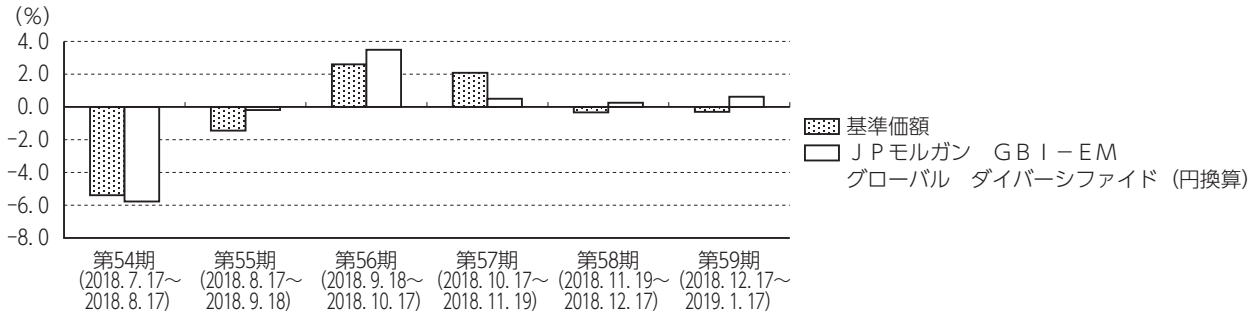
- ・通貨配分に関しては、基本的な商品性格に基づき、各地域均等、各地域内の投資通貨においても均等となることをめざしました。
- ・欧州・中東・アフリカ地域ではトルコ・リラ、南アフリカ・ランド、ロシア・ルーブルに、アジア地域においては、インドネシア・ルピア、フィリピン・ペソ、インド・ルピーに、中南米地域ではブラジル・リアル、メキシコ・ペソ、ペルー・ソルにそれぞれ投資を行いました。
- ・債券ポートフォリオの金利リスクについては、修正デュレーションで1（年）程度～3（年）程度でコントロールしました。また、組入債券の種別構成については、主に現地通貨建国債からなるポートフォリオ構成としました。
- ・通貨カバードコール戦略（新興国通貨それぞれについて、円に対する当該新興国通貨のコール・オプションを売却し、オプションのプレミアム収入の獲得をめざす戦略）を構築し、オプションプレミアムの獲得をめざしました。

### ■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債、現先取引およびコール・ローン等による運用を行いました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。  
以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



## 分配金について

当作成期の1万口当り分配金(税込み)は下記「分配原資の内訳(1万口当り)」の「当期分配金(税込み)」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程(1万口当り)」をご参照ください。  
なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### 分配原資の内訳 (1万口当り)

項 目	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
	2018年7月18日 ~2018年8月17日	2018年8月18日 ~2018年9月18日	2018年9月19日 ~2018年10月17日	2018年10月18日 ~2018年11月19日	2018年11月20日 ~2018年12月17日	2018年12月18日 ~2019年1月17日
<b>当期分配金(税込み) (円)</b>	<b>55</b>	<b>55</b>	<b>55</b>	<b>40</b>	<b>40</b>	<b>40</b>
対基準価額比率 (%)	1.08	1.10	1.09	0.78	0.79	0.80
当期の収益 (円)	55	55	55	40	40	40
当期の収益以外 (円)	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額 (円)	54	58	61	85	104	122

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

## ■収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 57.00円	✓ 59.21円	✓ 57.32円	✓ 64.78円	✓ 58.89円	✓ 57.75円
(b) 経費控除後の有価証券売却等損益	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
(c) 収益調整金	23.81	23.90	24.00	24.10	24.22	24.38
(d) 分配準備積立金	28.74	30.66	34.79	37.02	61.69	80.42
(e) 当期分配対象額 (a+b+c+d)	109.56	113.79	116.12	125.91	144.80	162.56
(f) 分配金	55.00	55.00	55.00	40.00	40.00	40.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e-f)	54.56	58.79	61.12	85.91	104.80	122.56

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

当ファンドの商品性格に鑑み、エマージング・ボンド・ファンド（通貨αクラス）の受益証券を高位で組み入れ、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

### ■エマージング・ボンド・ファンド（通貨αクラス）

欧州・中東・アフリカ、アジア、中南米の3地域で地域分散を図り、その地域内で3通貨ずつ、計9通貨の高金利債券に投資することで、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。金利リスクを表す修正デュレーションは1（年）程度～3（年）程度でコントロールします。通貨カバードコール戦略を構築し、オプションプレミアムの獲得をめざします。

### ■ダイワ・マネー・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

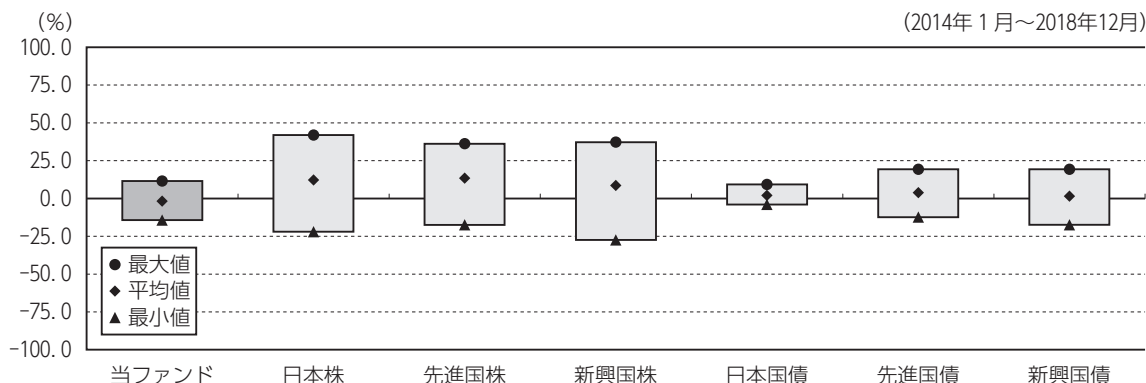


## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	約10年間 (2014年1月24日～2024年1月17日)	
運用方針	信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	当ファンド	イ、ケイマン籍の外国投資信託「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) III-ダイワ・エマージング・ローカル・マーケット・ボンド・ファンド (通貨αクラス)」 (以下「エマージング・ボンド・ファンド (通貨αクラス)」といいます。) の受益証券 (円建) ロ、ダイワ・マネー・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネー・マザーファンド	本邦通貨表示の公社債
当ファンドの運用方法	①主として、エマージング・ボンド・ファンド (通貨αクラス) の受益証券を通じて、新興国の現地通貨建債券への分散投資と通貨のオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を構築し、オプションプレミアムの獲得ならびに信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。 ②当ファンドは、エマージング・ボンド・ファンド (通貨αクラス) とダイワ・マネー・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態では、エマージング・ボンド・ファンド (通貨αクラス) への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③エマージング・ボンド・ファンド (通貨αクラス) では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。	
マザーファンドの運用方法	①わが国の公社債を中心に安定運用を行ないます。 ②邦貨建資産の組み入れにあたっては、取得時に第二位 (A-2格相当) 以上の短期格付であり、かつ残存期間が1年未満の短期債、コマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等とし、原則として、継続的な分配を行なうことを目標に、基準価額の水準を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	



## 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	11.5	41.9	36.2	37.2	9.3	19.3	19.3
平均値	△ 1.8	12.2	13.4	8.5	2.0	3.8	1.5
最小値	△ 14.3	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4

上記の図表は、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したもので、過去5年間における年間騰落率（各月末における直近1年間の騰落率）の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示しています。

※各資産クラスは、ファンドの投資対象を表しているものではありません。

※ファンドの年間騰落率は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

※ファンドの年間騰落率において、過去5年間分のデータが算出できない場合は以下のルールで表示しています。

- ①年間騰落率に該当するデータがない場合には表示されません。
- ②年間騰落率が算出できない期間がある場合には、算出可能な期間についてのみ表示しています。
- ③インデックスファンドにおいて、①②に該当する場合には、当該期間についてベンチマークの年間騰落率で代替して表示します。

※資産クラスについて

日本株……………東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株……………MSCI コクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株……………MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債……………NOMURA-BPI 国債

先進国債……………FTSE 世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債……………J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイド（円ベース）

※指数について

●TOPIXは東証が算出・公表し、指数値、商標など一切の権利は株式会社東京証券取引所が所有しています。●MSCI コクサイ・インデックスおよびMSCI エマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。●NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数で、一定の組み入れ基準に基づいて構成された国債ポートフォリオのパフォーマンスをもとに算出されます。NOMURA-BPI 国債の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しています。また、同社は当該指数の正確性、完全性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLC が有しています。●J.P. Morgan ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット グローバル ダイバーシファイドは、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morgan はその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morgan からの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2016, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.





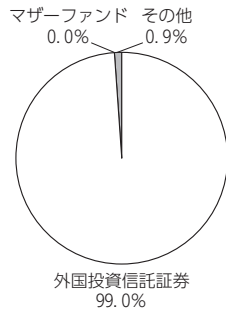
# ファンドデータ

## 当ファンドの組入資産の内容

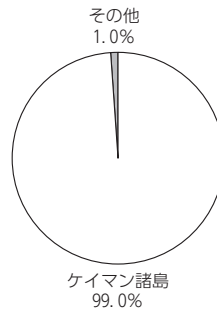
### 組入ファンド等

	比率
エマージング・ボンド・ファンド (通貨αクラス)	99.0%
ダイワ・マネー・マザーファンド	0.0
その他	0.9

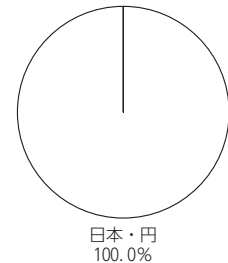
### 資産別配分



### 国別配分



### 通貨別配分



(注1) 上記データは2019年1月17日現在のものです。

(注2) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注3) 国別配分において、キャッシュ部分については「その他」に含めています。

\*当ファンドは、上記組入ファンドを通じて実質的な運用を行っています。次ページの「組入上位ファンドの概要」には、組入上位3ファンドまでのファンドの内容を掲載しています。

## 純資産等

項目	第54期末	第55期末	第56期末	第57期末	第58期末	第59期末
	2018年8月17日	2018年9月18日	2018年10月17日	2018年11月19日	2018年12月17日	2019年1月17日
純資産総額	2,142,655,820円	2,049,912,571円	2,032,209,179円	2,012,200,535円	1,952,083,234円	1,898,750,406円
受益権総口数	4,238,977,388口	4,160,478,673口	4,064,231,956口	3,973,850,260口	3,898,781,762口	3,834,474,106口
1万口当り基準価額	5.055円	4.927円	5.000円	5.064円	5.007円	4.952円

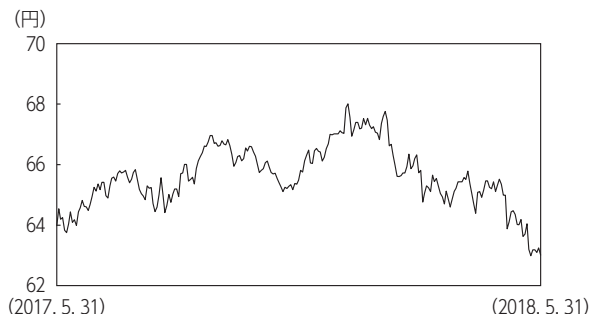
\* 当作成期間 (第54期～第59期) 中における追加設定元本額は59,235,065円、同解約元本額は499,861,505円です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

## 組入上位ファンドの概要

### ◆クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－ダイワ・エマージング・ローカル・マーケット・ボンド・ファンド（通貨αクラス）（作成対象期間 2017年6月1日～2018年5月31日）

#### ■ 1口当り評価額の推移



(注) 1口当り評価額は、分配金を再投資したものとみなして計算しています。

#### ■ 1口当りの費用の明細

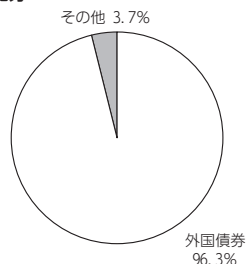
当ファンドの単位口数当りの費用のデータは取得できないため、記載していません。

#### ■ 組入上位銘柄

銘柄名	通貨	比率
BONOS DE T 7.84% 08/12/20/PEN/	ペルー・ソル	11.3%
NOTA DO TESO 10% 01/01/21/BRL/	ブラジル・レアル	10.5
PHILIPPIN 3.875% 11/22/19/PHP/	フィリピン・ペソ	9.5
PETROLEOS 7.65% 11/24/21/MXN/	メキシコ・ペソ	8.8
INDONESIA 7.875% 04/15/19/IDR/	インドネシア・ルピア	8.7
REPUBLIC O 7.25% 01/15/20/ZAR/	南アフリカ・ランド	7.2
TURKEY GOVE 8.8% 11/14/18/TRY/	トルコ・リラ	6.5
THAILAND 3.875% 06/13/19/THB/	タイ・バーツ	5.7
THAILAND G 3.65% 12/17/21/THB/	タイ・バーツ	5.6
RUSSIA GOVT 6.7% 05/15/19/RUB/	ロシア・ルーブル	5.5
組入銘柄数	19銘柄	

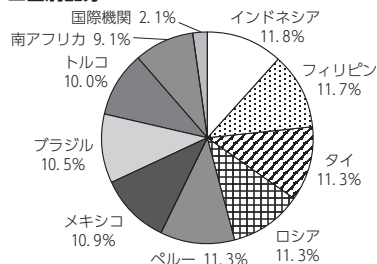
(注) 比率は債券のポートフォリオ全体に対する比率です。

#### ■ 資産別配分



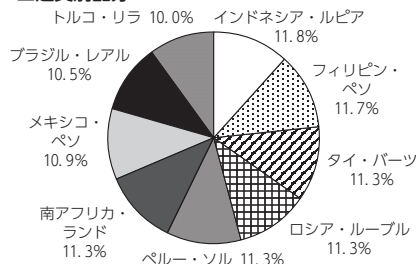
(注) 比率は買戻償還可能受益証券所有者帰属純資産に対する比率です。

#### ■ 国別配分



(注) 比率は債券のポートフォリオ全体に対する比率です。

#### ■ 通貨別配分



(注) 比率は債券のポートフォリオ全体に対する比率です。

\* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

◆ダイワ・マネー・マザーファンド (作成対象期間 2017年12月12日～2018年12月10日)

13ページをご参照ください。